

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率=予想値÷実績

令和6年11月末	令和7年2月末	令和7年5月見通し	令和7年8月見通し
－94千トン 〔1978千トン〕 (95.5%)	+12千トン 〔1957千トン〕 (100.6%)	+22千トン 〔1980千トン〕 (101.2%)	－25千トン 〔1955千トン〕 (98.7%)
2050千トン (103.6)	1990千トン (101.6)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和6年12月末	令和7年3月末	令和7年6月見通し	令和7年9月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は138,000円。前期比-1,700円。建築需要は実需不振が継続。年末に向けての商いも低調、特に店売り販売においては落ち着きをみせ、荷動き、引合いが更に低調だった。在庫は例年より低位で推移しており、市況はジリ安傾向。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は136,000円。前期比-2,000円。年明けから低調な商いが継続。発注を抑え在庫調整しているも、需要の少なさから過剰気味感が感じられた。前年より若干少ない需要環境で年度末の駆け込み需要もなかった。	5月GW以降、更に荷動きも悪く6月はその動きを引きずっている。特に建築需要の乏しさから流通間の受注競争に伴う安値や安価な輸入材の影響で市況は弱含み採算悪化が懸念される。仕入抑制で在庫量は横ばいだが、実需に比べ感覚的には過剰ぎみで推移するだろう。	建築需要は悪い見通しで流通各社は余分な在庫を持たないようにしている。人手不足、残業規制等の影響で工事が進まないことと猛暑が予想され更に遅れが生じるのではないかと懸念している。特に中小物件は相変わらず低調が続き、物件が出ると受注競争で市況は弱含むだろう。建産機など製造業関連も減産予想で低迷が続く見通しである。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

2月仕入量は141,407トン前月比+6.5%、前年同月比-10.8%、販売量は139,232トン前月比+4.9%、前年同月比-9.7%。前月比において仕入量、販売量ともに増加。前年同月比において仕入れ量は著減、販売量は減少しました。在庫量は201,545トン前月比+1.1%、前年同月比-11.2%、在庫量は前月比増加、前年同月比は著減しました。在庫率は144.8ポイントと下降しました。低調な荷動きが続き、販売量も前年同月比で約1割減少しています。市況はジリ安傾向となっています。

4. 大阪

H形鋼・一般形鋼の4月～6月の荷動きは、前年同月比・前月比共に減少となり、6月予想は、5月に落ちた分が回復する見込みだが建築関係を含め全体的に需要感は低調。丸鋼・構造丸も4月に入って少し荷動きはあったが、5月の連休明け後は再び冴えない状況。ただ自動車は、前年の認証不正問題があった事もあり、前年比が大幅にプラスとなっている。

7月～9月の需要見通しは、8月のお盆休みに加え最近の酷暑で仕事は全体的に予定通り進まないと思われるため、4月～6月比大きな変化はないと思われます。自動車は、メーカー各社の生産はおおむね回復してきているが、絶対値では2023年以前と比較するとまだ低水準。米国の関税動向次第では生産台数に大きな影響が出る可能性あり。引き続き注視が必要と思われる。